



香川大学大学院 創発科学研究科創発科学専攻 ＜修士課程＞

研究科概要説明資料

令和4年5月



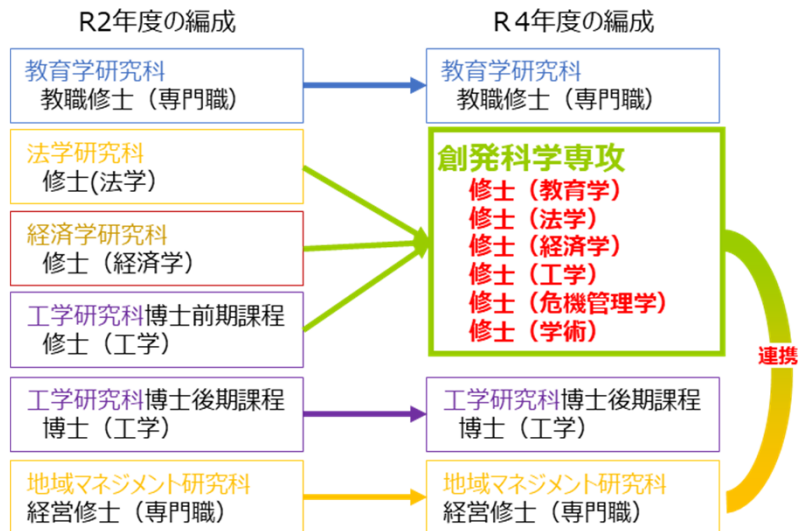
本資料の構成

1. 創発科学研究科設置の背景及び全体構想
 - 創発科学研究科設立の狙い
 - 地域固有の課題と創発
2. 教育課程（カリキュラムと履修フロー、ユニット概要）
 - 履修フロー 入学前～修士2年
 - カリキュラムと教育の特色
 - 共通科目について
 - 専門科目について
 - 研究指導体制
 - 修了要件
 - 学位と専門性
3. 入学者選抜について

創発科学研究科設立の狙い

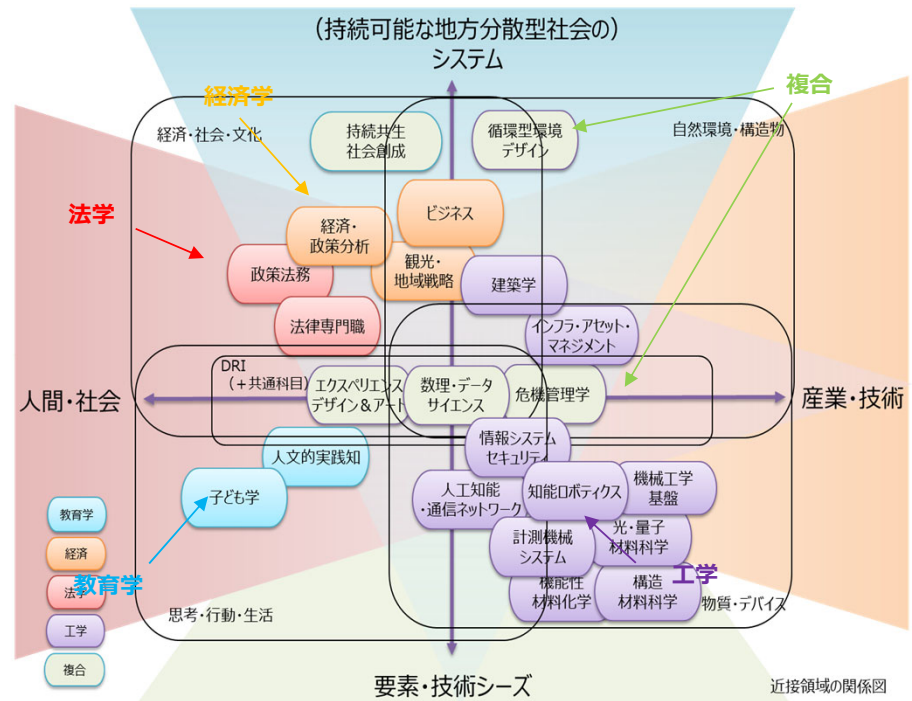
21世紀は不確実で、複雑かつ曖昧な時代（VUCA時代）と言われている。従来の専門分野に閉じた修士教育では、このVUCA時代の課題を解決する人材育成には不十分である。地方の課題は大都市と比べはるかに複雑であるが、反面、課題そのものが創発的でありチャンスでもある。香川県は都道府県別で面積最小であるが、多くの島々を抱え海岸線は極めて長い（面積あたりの海岸線は全国3位）。この特性が危機管理や水資源に関する社会・環境的課題も生み、さらに歴史文化と景観を活かし観光資源にもなる。こうした課題やチャンスに対峙するためには、**従来の専門分野を軸としながら、前例にとられない文理融合を実現すること**が重要である。これまで、日本を代表する東京大学（総合文化研究科）、東京工業大学（社会理工学研究科／環境・社会理工学院）等でも文理融合が図られ一定の成果を収めているが、香川大学は新研究科を通し、VUCA時代への先駆的な取り組みとして多様な切り口により、**現場の課題に至近距離からコミットし、学生一人一人に創発的な融合を促す、地方国立大学の文理融合の先駆的形を提案する。**

開設年度：令和4年度
入学定員：130人
教育学研究科，法学研究科，経済学研究科，工学研究科を再編し一研究科へ！



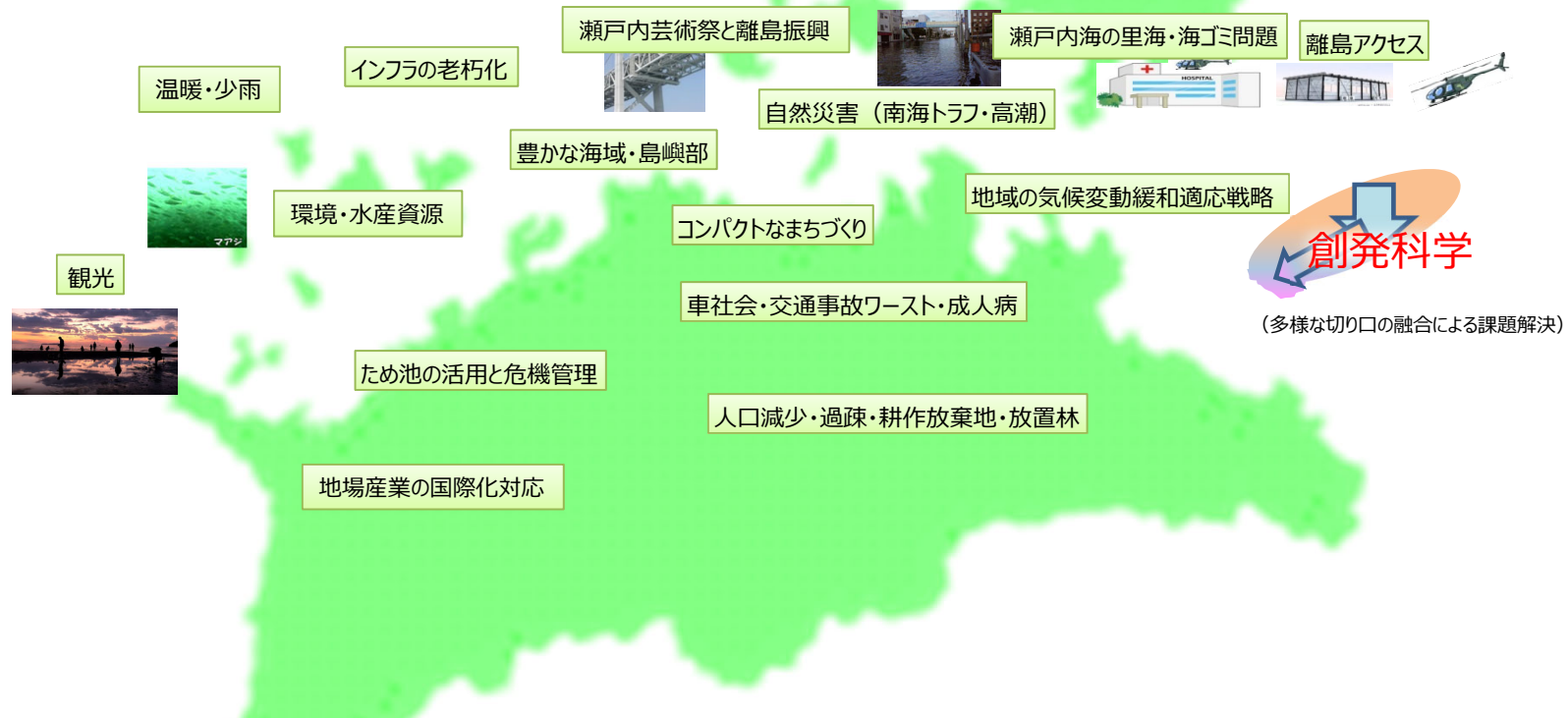
香川大学の創発科学とは

軸となる専門だけでなく、異分野と効果的に相互作用させることによって融合の総和にとどまらない画期的な知や解決策を導出する学びや探求の規範。



ユニットと専門性（イメージ）

地域固有の課題と創発



- ✓香川県は都道府県別で面積最小であるが、多くの島々を抱え海岸線は極めて長い（面積あたりの海岸線は全国3位）。この特性が危機管理や水資源に関する社会・環境的課題も生み、さらに歴史文化と景観を活かし観光資源にもなる。
- ✓こうした課題やチャンスに対峙するためには、従来の専門分野を軸としながら、前例にとられない文理・分野融合を実現することが重要である。
- ✓研究対象フィールドまでの距離が近い香川大学ならではの特長を活かしたフィールドベースの教育研究を実践し、地域の実情に即した課題解決策を検討することができる。）

【参考事例】地方都市ならではの**持続可能な**まちづくりのあり方の提案

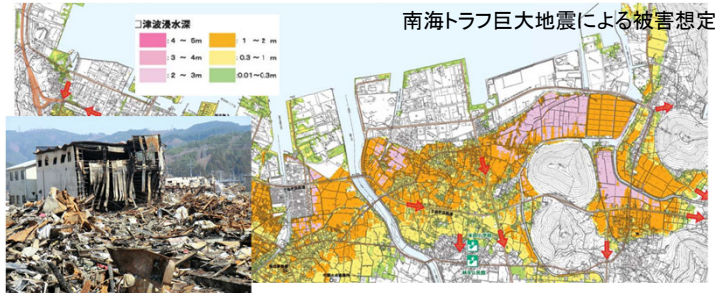
○「災害に強いまちづくり」の研究

住民のニーズを反映するだけでなく、地域に調和し、防災技術にも裏打ちされた災害に強いまちづくりの提案を行う。

フィールドベースの教育研究を実践
行政機関やNPO等との共同研究

主ユニット：政策法務ユニット

関連科目：レジリエンスマネジメント、観光地域戦略、経済・政策分析、循環型環境デザイン、数理・DS等から選択



【重要性・応用性】

一つの地域の中で、景観と防災、コンパクトシティと周縁部の過疎化等、時に矛盾する課題が存在する。このような**矛盾を克服し、新たな地域像を提示**し、将来の「まちのあり方」を提案し、支援するための法制度等を発案することが重要となる。このような取り組みを通して、**持続可能な**地方分散型社会の実現に資することができる。

創発

○「観光資源としてのまちづくり」の研究

景観を保全し、歴史ある町並みを新たな観光資源として再生させ、地域資源を効果的に活用したまちづくりの提案を行う。

フィールドベースの教育研究を実践
行政機関やNPO等との共同研究

主ユニット：観光地域戦略ユニット

関連ユニット：建築学、循環型環境デザイン、経済・政策分析等から選択



【香川大学が取り組む事の意義】

研究対象フィールドまでの距離が近い香川大学ならではの特長を活かした**フィールドベースの教育研究**を実践すること出来る。また、対象は同じであっても、**異なるアプローチをとる学生が相互に交流**するなかで、これまでにない新たな解決策が創発される可能性を提供できる。

【参考事例】AIによる画像認識・処理技術や最新のクラウド技術などを活用した観光支援システムの開発と開発したシステムによる社会実験の実施

○「観光と情報」の融合による地域課題解決型システムの開発

地域活性化にむけた観光への期待を踏まえ、最新の情報技術活用による観光支援システムの開発による満足度の向上

最新の情報技術（AI、クラウド技術）適用
民間企業との共同研究

主ユニット：情報システムセキュリティ

関連科目：観光地域戦略、ビジネス、エクスペリエンスデザイン&アート、数理・DS等から選択

【重要性・応用性】

瀬戸内を始めとする豊かな自然環境や景観、歴史的建造物や瀬戸内国際芸術祭などのアートで注目される香川県では、それらの資源を生かした観光産業の振興による地域活性化が期待されている。アフターコロナを見据え、最新の技術を活用したユーザーフレンドリーな新たな観光支援のシステムを構築が期待される。

【香川大学が取り組む事の意義】

本システム開発は、香川大学が持つ情報システムセキュリティ分野の技術と観光、ビジネス等の分野の知見を融合することで成し得るものであり、さらに企業と連携することでビジネス展開につなげることが出来る。

観光地周遊支援システム 「KadaBingo/カダビンゴ」



旅の思い出を記録する観光ガイドブック 生成・印刷システム「KadaPam/カダパン」



【参考事例】AI, IoTを利用した新生産システム（水産養殖イノベーション） による社会実験の実施

○工学的、経済学的ノウハウと養殖 施設のモニタリング

瀬戸内海の自然エネルギー（潮流）を利用したECO発電装置：（海面での畜養が必要な場合に導入）

水温制御、水槽内の流れ

水質、給餌、成育状況

AIによるオートメーション化

○海洋生物・環境分野のノウハウ

餌料（スーパー珪藻）、水質管理

○採算性、流通、ビジネス展開

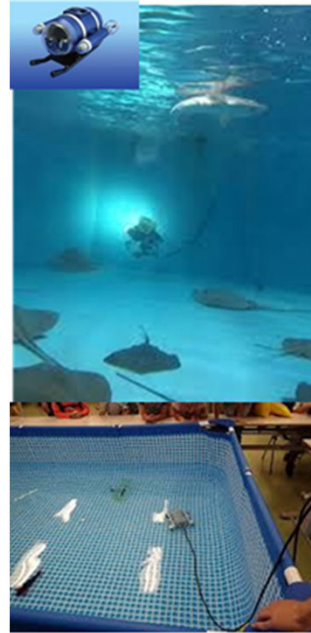
魚食推進と民間企業との共同研究

主ユニット：循環型環境デザイン

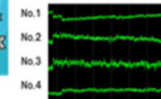
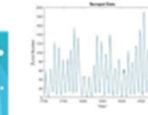
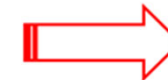
関連科目：知能ロボティクス、経済・政策
分析、ビジネス、観光・地域
戦略、数理・DS等から選択

【重要性・応用性】

魚類養殖発祥の地でもある香川県は、海産物安定供給の要望が高まりにより、養殖による効率的な生産が益々重要になりつつある。陸上養殖は漁業権等様々な制約がある海面を使わないことから、一般の民間企業も参入が可能であり、新たな養殖システムによる新産業の開拓、雇用の創出につながる。



リアルタイム監視
水質、成長、給餌等
データ転送（5G）

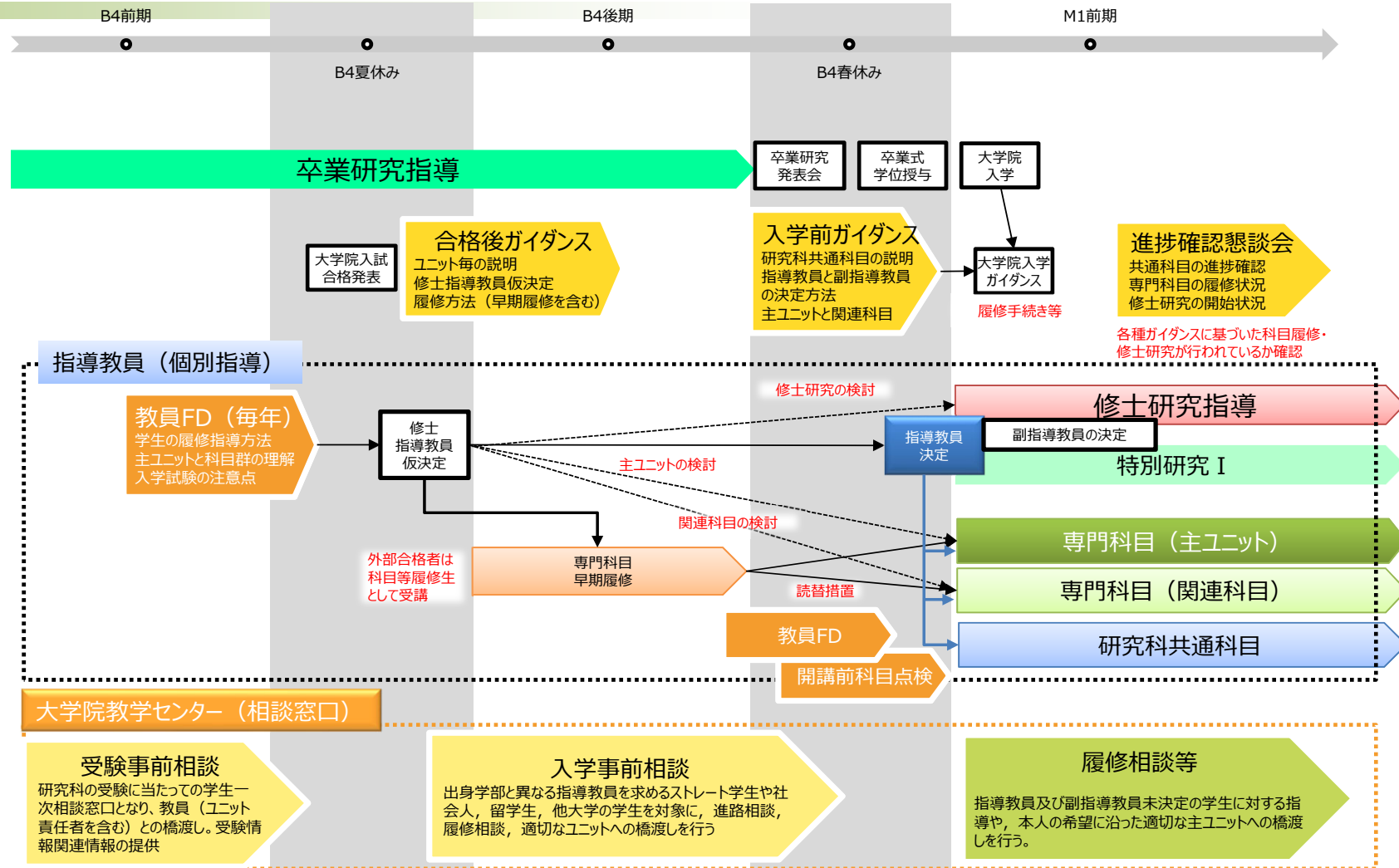


出荷

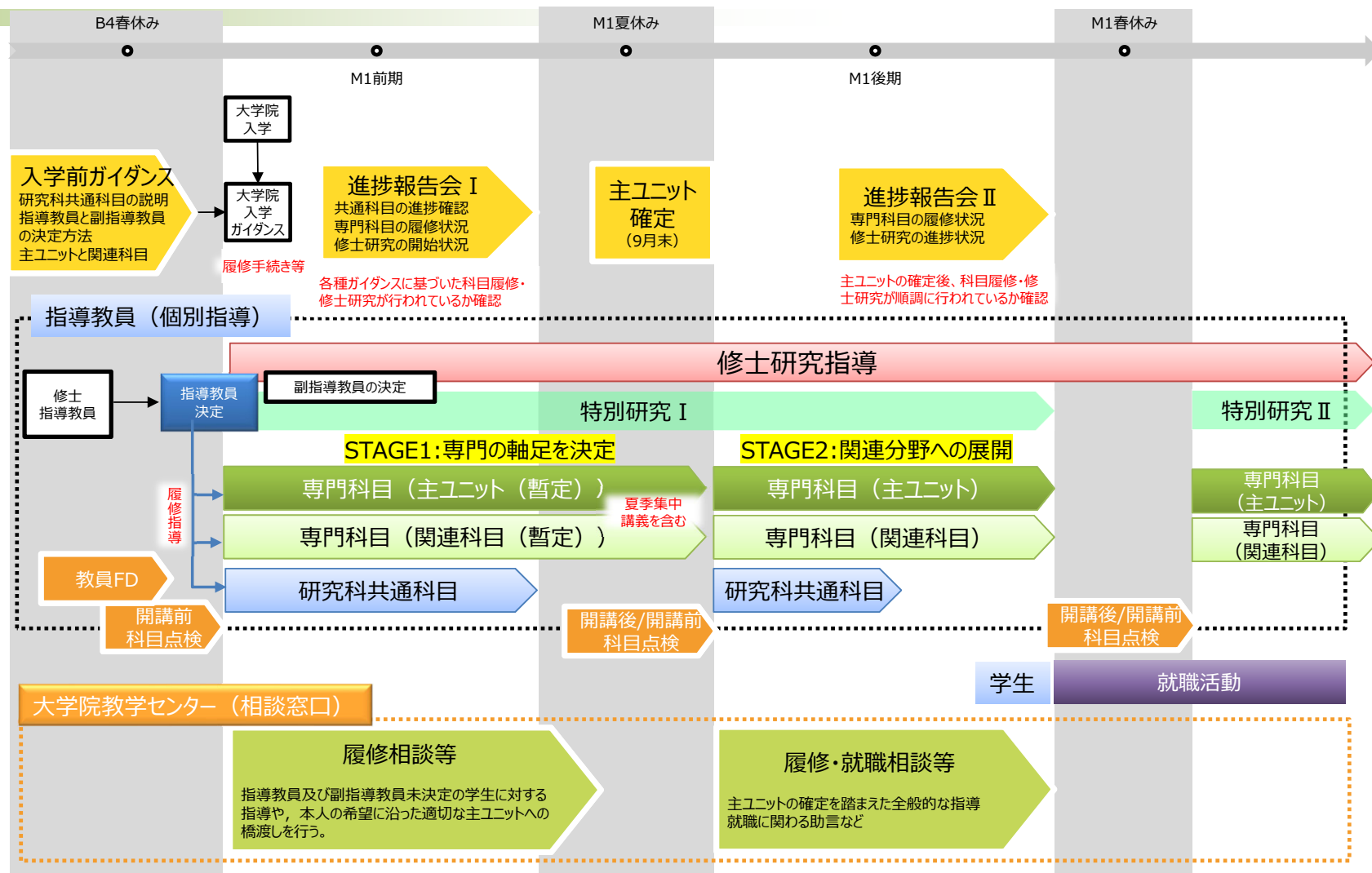
【香川大学が取り組む事の意義】

本システム開発は、香川大学が持つ水産工学、機械工学、環境分野の技術と経済、観光、法律分野の研究を融合することで成し得るものであり、さらに地域マネジメント研究科と協働することでビジネス展開につなげることが出来る。

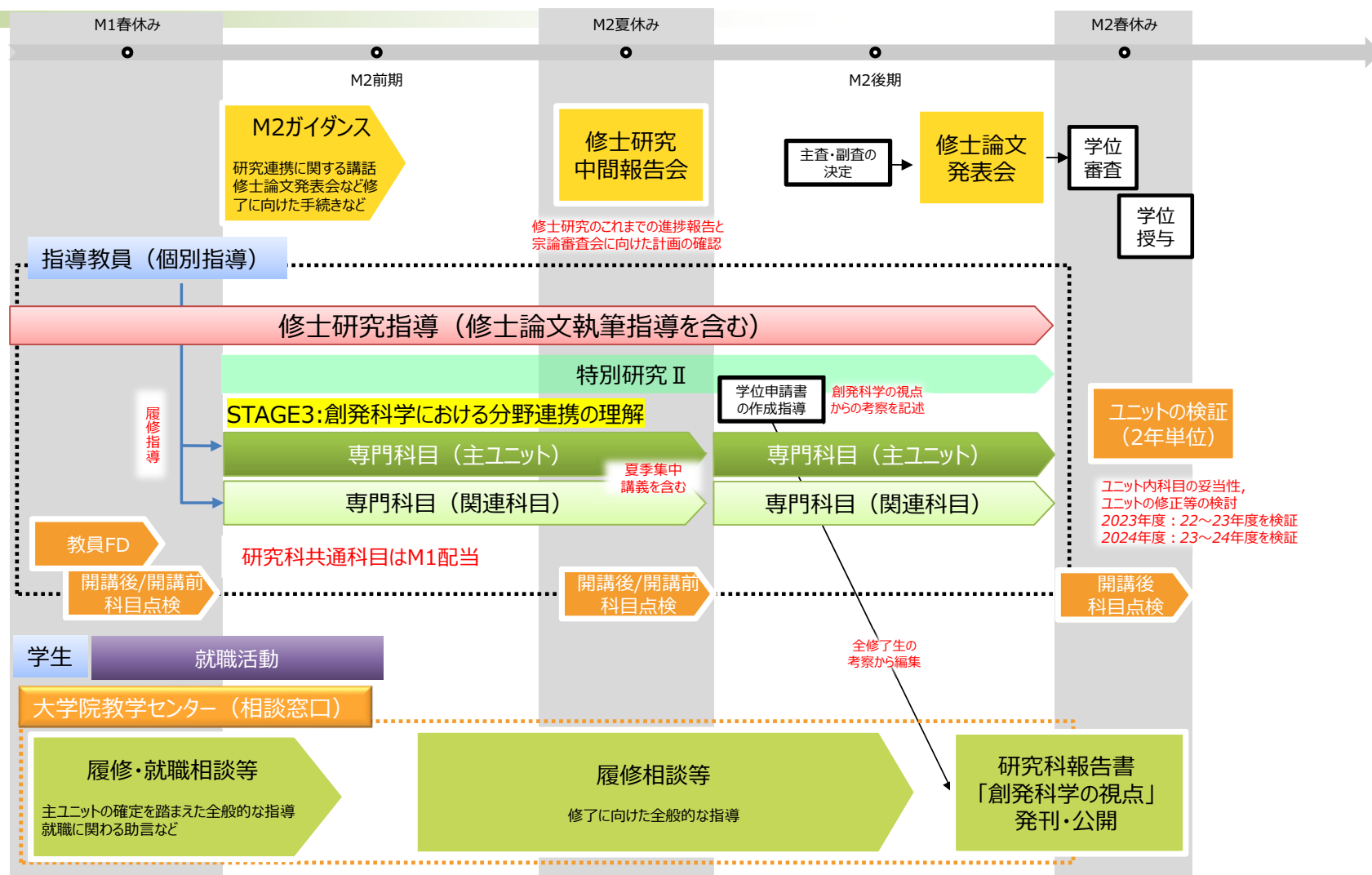
履修フロー 入学前



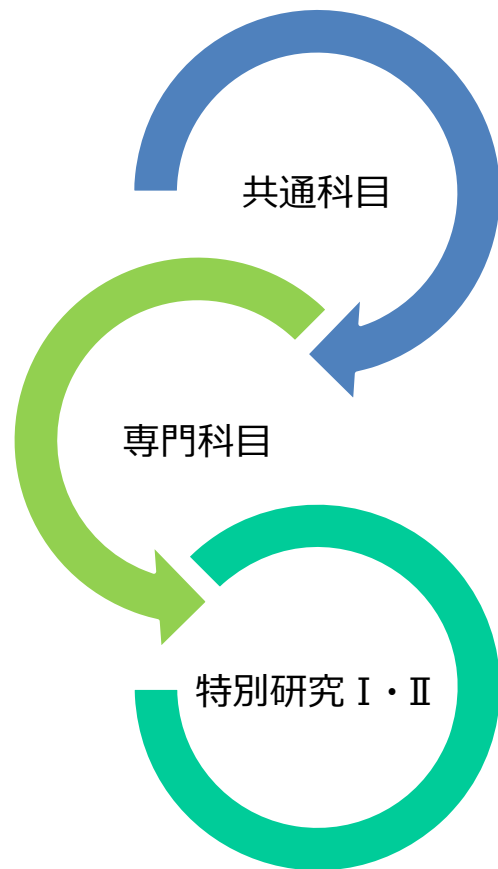
履修フロー 修士 1 年



履修フロー 修士2年



カリキュラムと教育の特色



全ての学位に関連する必須的な科目（マインドセットの構築）

- ・全学必修：研究倫理
- ・研究科必修：創発の方法、創発の発展、創発の基礎(D)・(R)・(I)
(D:Design thinking, R:Risk management, I:Informatics)
- ・研究科選択必修：創発の視点、創発の思考、創発の実践、
SDGs、ELSI、フィールドスタディ

専門知識の修得に関連する科目（ユニット制の導入）

- ・主ユニットによる高度な専門知識・技能の修得
- ・関連科目による俯瞰性の担保（関連科目は指導教員の指導の下で選択）
- ・従来型の専門科目以外にも文理・分野融合的な科目を新設

専門性（あるいは学際性）に対応した研究指導体制の下で、個々のテーマに沿った研究を遂行

- ・自らの専門に関わる課題を整理し、解決方法の提案と検証方法の探索・
決定、分析・解析を経て一定の結論を導く

これらに加え、創発を生み出すための研究科としての特色的な活動を展開

共通科目について

全学必修		研究科必修		修了要件 8単位（開設科目数 12科目）（各1単位）							
研究倫理		創発の基礎(D)		創発の基礎(R)		創発の基礎(I)		創発の方法		創発の発展	
■概要・目的 健全な研究・調査の進展のために、研究者や調査主体の行動規範となる研究倫理を身に付けることを目的とする。 第1回：研究倫理で何を学ぶか（共通） 第2回：各分野の研究倫理の基礎（選択） 第3回：研究倫理の模擬体験（共通） ・・・ 第8回：まとめ（共通）		Design thinking : イノベーションを創出する「デザイン思考」 ■概要・目的 デザイン思考能力を育成する科目。学生が自分で考えそれを表現したり、他者に共感したり、アイデアや考えを実証したりする能力を育成する。		Risk management: レジリエンスやセキュリティ等に資する「リスクマネジメント」 ■概要・目的 リスクマネジメント能力を育成する科目。リスクとそれに対するマネジメント等の能力を育成する。		Informatics : 専門分野を超えた「インフォマティクス」 ■概要・目的 数値分析・情報基礎力を育成する科目。基礎的な数値分析・情報に関する能力を育成する。		学際的な分野横断の方法論 ■概要・目的 課題発掘のための実務者（自治体首長・企業経営者等）による授業 アントレプレナーシップ <出身学部によりいずれかを選択> A:文系のための自然科学・工学における数学的モデルの理解 B：理系のための人文社会科学における理論化・概念化		持続可能な地方分散型社会 ■概要・目的 持続可能な地域分散社会の実現にとって重要な課題（テクノロジーの変化、高齢化社会の進展、自然災害の多発、グローバル化など）の現状・課題・未来について多様な観点から学ぶとともに、その解決策を学生間でのディスカッションを通じて考えることで、「創発」の基盤となる学際的な見方・思考力を育成する。	
研究科選択必修				6科目のうち2科目以上履修							
創発の視点		創発の思考		創発の実践		SDGs		ELSI		フィールドスタディ	
■概要・目的 多文化共生、ダイバーシティなどについての理解を深めることでグローバルな視座を身に着けるとともに、多様性を尊重し、活用する新たな社会の在り方を模索する。 ■講義形式 オムニバスを含める講義		■概要・目的 ロジカルシンキング、クリティカルシンキングなどの思考法や他者との協働方法（チームビルディング、ファシリテーション）などの素養を身に着ける。 ■講義形式 オムニバスを含める講義		■概要・目的 異分野の学生がチームとなって「実践型インターシップ」へ参加することで、実社会の中での創発を体験し、創発を実践する上での諸課題やアントレプレナーシップを身に着ける。 ■講義形式 グループワークとフィールドワークを中心		■概要・目的 SDGsについて具体的な活動事例を通して理解を深めるとともに、授業を通して、自らはどのような形で課題解決に貢献することが出来るのかについて検討する。 ■講義形式 オムニバスを含める講義		■概要・目的 創発がもたらす新たな産業創造や生活様式の変容に伴い発生する倫理的課題（Ethical Issue）・法的課題（Legal Issue）・社会的課題（Social Issue)に対するガイドラインや諸問題に対する研究内容について学び、的確に対応するための素養、課題解決に資する知識や技術の創出を身に着ける。 ■講義形式 オムニバス講義		■概要・目的 それぞれのバックグラウンドとしてのユニットの課題を意識しながら、2～3つの地域を対象に、調査研究とデザインを実践する。 豊島直島のペアを考える研究実践、香川側の里海と岡山側の里海での研究実践等を通して瀬戸内圏における課題の発見とその解決に資する知識や技術を身に着ける。 ■講義形式 オムニバス講義（フィールドワーク含む）	

専門科目について

【専門科目とユニット制】

1研究科1専攻として教育活動にあたる本研究科では、ユニット制を採用しています。

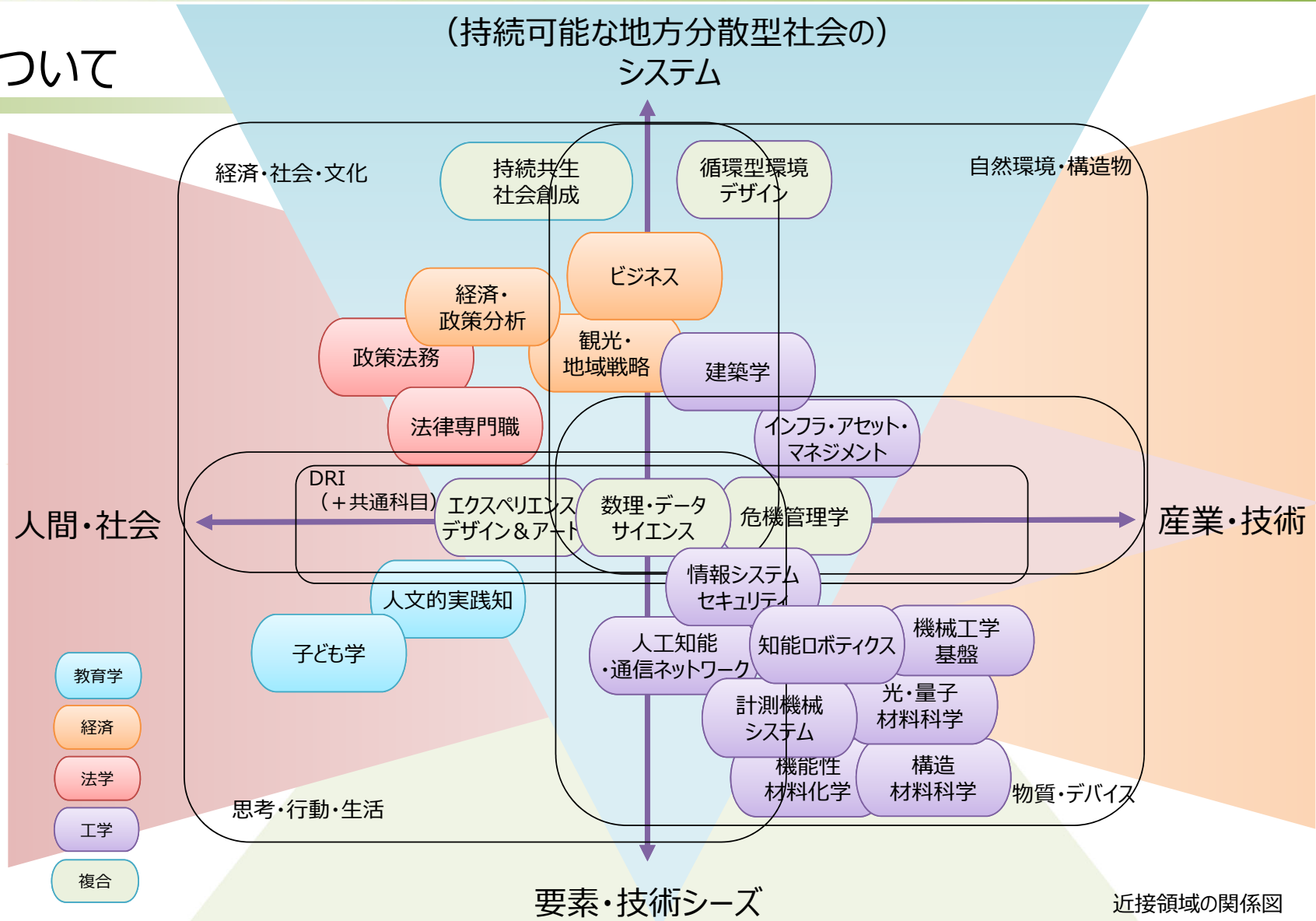
ユニットとは社会的重要性の高い専門的なテーマや解決すべき課題に即して編成された 科目群を指します。

本研究科は、多彩かつ膨大な数の(専門)科目を 22 のユニットとして整理し、それぞれが体系だった形で学生に提供することとしました。

ユニットは、これまで教育学、法学、経済学、工学研究科等が保有してきた教育・研究資源を効果的に組み合わせでデザインされた科目群でもあります。

※次項以降に各ユニットの概要を記載しています。

ユニットについて

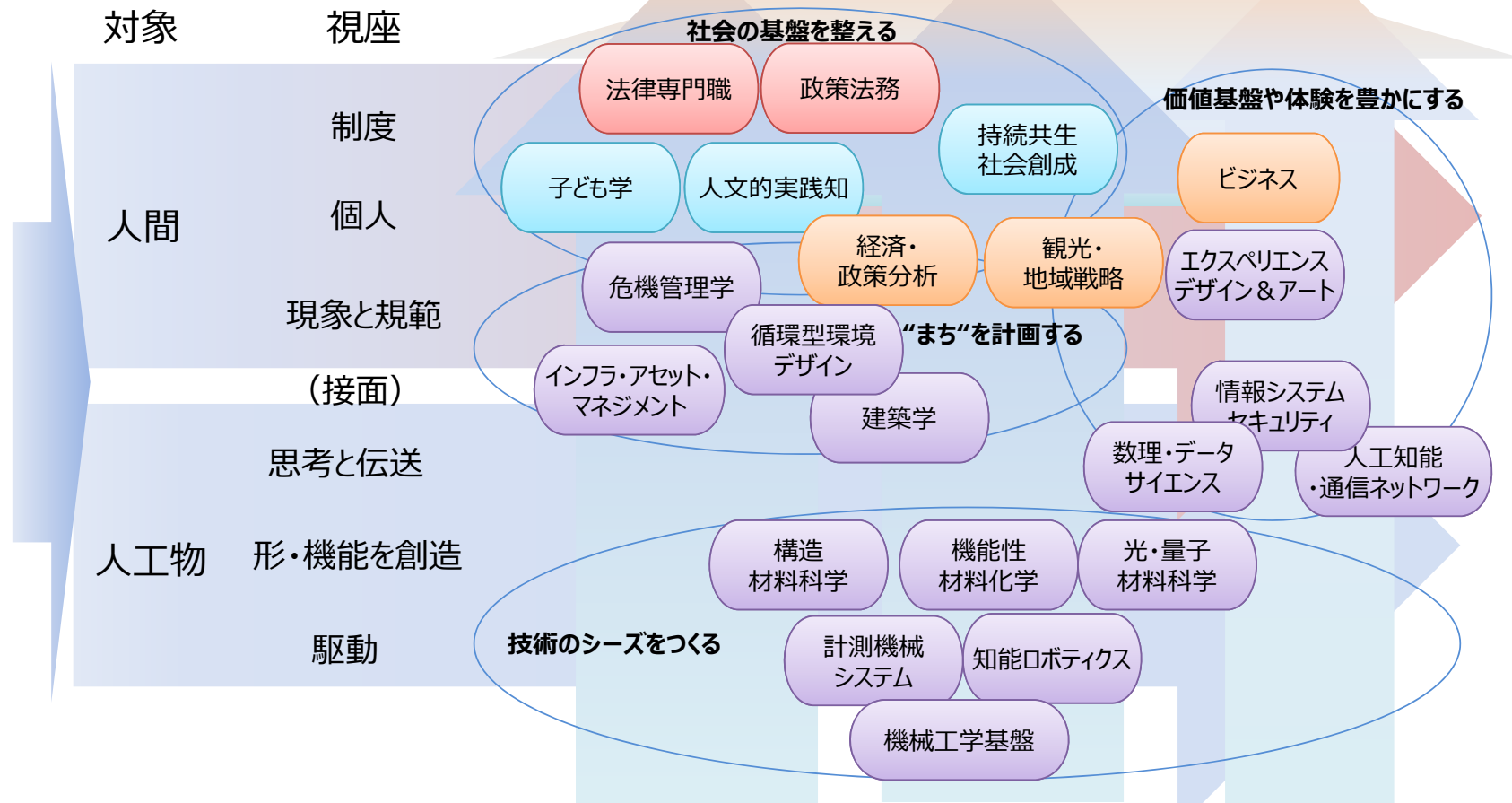


ユニットについて

創発科学の出口

現代の複雑な社会課題の解決とイノベーション実現

創発科学の入り口



ユニット概要

NO.	ユニット名	概 要
1	法律専門職	近年の訴訟の変質、増加に伴い、弁護士だけでなく司法書士、税理士、土地家屋調査士、社会保険労務士といった隣接法律専門職へのニーズが高まっている。 本ユニットでは、多様化・複雑化した現代社会に対する幅広い視点を備えつつ、こうした法律専門職に求められる高度な法的知識と技能を修得するために、実定法分野を中心とした法学に関する専門科目群を提供する。
2	政策法務	本ユニットでは、主として行政の立場から、変動する地域社会が抱える課題の解決に取り組むことのできる人材を養成することを目指す。そのために、行政法系科目や刑事法系科目を中心として、地域社会が抱える課題に法的にアプローチする上で必要とされる専門的な法的知識と、幅広い視野を身につけることができる科目群を提供する。
3	経済・政策分析	本ユニットでは、経済学および政策科学の専門分野を基盤とし、公共政策や企業経営の理論・実践にかかわる専門的素養を身につけるための科目群を提供することにより、政府・地方自治体・民間部門などの様々な立場において社会の諸課題の解決策を提案し、持続可能な社会の実現に貢献することのできる人材を育成する。

NO.	ユニット名	概 要
4	ビジネス	本ユニットでは、ビジネスを取り巻く環境の変化に柔軟かつ迅速に対応できるよう、経営学、会計学、商学、ファイナンスなどビジネスマネジメント全般の幅広い専門知識や論理的な思考力を修得するための科目群を提供する。これにより、学術的な観点から産業界が抱える実務的課題を発見・分析し、その解決策を提案することで、イノベーションの創出や産業の持続的発展、健全な経営体制の構築に貢献できる専門人材を育てる。
5	観光・地域戦略	急速なデジタル化に伴う生活様式の変化や働き方の変化を受けて、地域を主体とした持続可能で戦略的な地域運営能力を有する人材養成を目指す。グローバルな視野から瀬戸内圏あるいは香川を中核としたローカルの価値を認識し、地域資源の保全や活用を検討・実践できる能力を身につける。経営学・人文学・工学・環境学・デザイン学などを融合する観光学類に関する幅広い専門知識や倫理的教養を修得するためのプログラムを提供する。
6	持続共生社会創成 (CSIS)	本ユニットでは、持続共生社会の実現に必要な4つの力能―①21世紀社会に相応しい新たな価値・社会像を提案できる②技術を通して社会的な課題を支援・解決できる③言語・文化の相互理解を通して価値実現ができる④制度やシステムとして社会に具現化できる―を備えた人材を養成する。そのために [価値創造科目群][技術支援科目群][言語文化支援科目群][制度システム構築科目群]と「持続共生社会創成論」(コア科目)を提供する。



NO.	ユニット名	概 要
7	子ども学 (Child Studies)	「子ども」に関わる課題は、持続可能な開発目標(SDGs)と深く関わる国際的課題であると同時に、それを地方分散型社会において実現するにあたっては、地域に根ざした取り組みが不可欠である。本ユニットでは、医学・心理学・社会学・教育学・福祉学・法学・政策学・スポーツ科学等、関連領域による学際的協同の視点から「子ども学」のグローバル性を理解し、高度専門的視点を有する実践者を育成する科目群を[子ども-社会][理論-実践]の2軸から提供する。
8	人文的実践知	本ユニットでは、人文的知識をベースにした総合的な判断力を「人文的実践知」と定義し、この能力を身に着けた人材を養成することを目指す。そのために、グローバルな視点も踏まえつつ、文学、語学、哲学、思想、歴史学、地理学、人類学、民俗学、社会学など広く人文学を専門とする教員が協働し、持続可能な地域社会の実現を見据えた「人文的実践知」を習得するためのプログラムを提供する。
9	危機管理学	社会で生じる様々な危機(例えば、自然災害や感染症)を複眼的に解釈し、危機から生じる被害の軽減・回復の諸問題について効果的な解決策をデザインできる専門能力を身に付けた人材の養成を目指す。そのために、専門分野の異なる教員が協働し、危機管理に関する工学、医学、心理学、情報科学、法学、経済学等を含めた学際的な理論や危機管理の実践知を修得するためのプログラムを提供する。



NO.	ユニット名	概 要
10	循環型環境デザイン	本ユニットでは、ため池・豊島・里海に代表される瀬戸内環境をベースに、グローバルな国際共同研究の現場とも往還しながら、環境科学に基づき、持続可能な未来の循環型環境をデザインする。気候変動影響緩和・適応策、持続可能な循環型地域環境のデザイン、自然環境の変動メカニズムの解明等の工学的課題に、自然と人間の歴史的関係を踏まえたジオパーク運動、生涯教育及び学校教育支援を含む地域での環境科学や環境デザインの教育普及活動の実践的展開等の人文社会科学的なアプローチを結合させる。アジアを中心とした海外の諸大学の若手・大学院生と、短期長期の留学や遠隔技術も用いて広く結合して互いに成長しあうプログラムや、数理モデルや地球環境ビッグデータ解析法の活用を習得するプログラムを提供する。
11	エクスペリエンスデザイン&アート	持続的社会の質の向上と多様な社会を生き抜く力を養うために、アート、メディアデザイン、プロダクトデザイン、エンジニアリングデザインの叡智を融合しイノベーションを創出できる能力を養う。現代社会の地域が抱える問題に対して学際的な視点からより多くの共感を得て、地域の伝統・特色を活かした持続可能で一人一人が豊かになるモノ・コト・場を提案し、地域の文化振興、地域芸術を広く世界へ発信する能力の育成を行う。
12	インフラ・アセットマネジメント	現在、成熟型社会においてインフラ構造物の維持・補修・更新に対する最適化が必要とされている。本コースでは、土木・建築分野のインフラに対する新しいアセットマネジメント手法を開発することを目的として、各種構造物の新しい構造設計や耐久性設計手法や、種々のハザードを想定したリスク算定手法を習熟するとともに、材料の性能評価やリサイクルシステムの構築手法についても習熟する。



NO.	ユニット名	概 要
13	光・量子材料科学	本ユニットでは、自然科学と工学の理解を基盤として、高度な光・量子材料科学に関する知識・技術を修得し、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成することを目指す。そのために、機能性材料化学、構造材料科学、情報通信などとの分野横断も視野に入れ、主に物理学系、応用物理学系を専門とする教員が協働し、世界に通用する最先端の研究活動を通じて「光・量子材料科学」を習得するためのプログラムを提供する。
14	機能性材料化学	軽量、かつ、製造・廃棄コストを低減できる機能性材料の開発は、地域の特性に適合した新産業の創出など、持続可能な地域分散社会の構築に重要な役割を果たすと考えられる。本コースでは、機能性有機材料・機能性セラミックスを専門とする教員が連携し、新しい機能性材料のデザイン・合成やその機能性評価ができ、世界でトップレベルの材料開発・研究を積極的に推進できる高度な能力を有する 科学技術者を育成するためのプログラムを提供する。機能性材料化学ユニット、構造材料科学ユニットなどとの分野横断的連携に取り組み、材料科学に対して俯瞰的な視野を持つ研究者・技術者を育成する。
15	構造材料科学	工業製品の骨格である構造材料の高機能化と発展は21世紀社会の諸問題の解決に貢献することから、最先端構造材料科学の基礎および専門知識を身に付け、工学的に応用できる実践的能力を修得した人材の養成を目指す。加えて光・量子材料科学、機能性材料化学、機械工学基盤など分野横断的な学びによる多面的かつ創造的実践力を身に付け、世界に通用する技術者を育成するプログラムを提供する。



NO.	ユニット名	概 要
16	計測機械システム工学	本ユニットでは、高度な機械工学の専門知識を基盤とし、人・動物・植物といった生体と、自然環境の計測を通じて、社会課題の解決に資する革新的な機械システムを開発できる人材を育成する。計測機械システムを構成する上で必要となる機械工学の実践的知識・技術を習得するとともに、計測対象に関する知識とそこで価値を生む計測技術を創造するための分野融合的科目を配置する。
17	知能ロボティクス	本ユニットでは、少子高齢化、地方創生など現代社会における諸課題を解決する知能ロボットシステムを設計・運用するため、メカトロニクス、医療・福祉、人間機械系など分野横断的かつ高度な専門知識を修得するための科目群を提供する。高度かつ分野横断的な専門知識の修得により俯瞰的、多角的思考能力を身につけることで、地方発のイノベーションの創出、持続可能な社会システムの実現ができる人材を育成する。
18	機械工学基盤	本ユニットでは、材料力学・熱力学・流体力学・機械力学・システム(情報)の統合化による機械基盤技術の専門能力を有し、イノベーション創出のためにこれらの技術を革新的に応用できる人材の養成を目指す。そのために、機械設計(具現化)を修得する教育プログラム、高度な研究開発能力を涵養する実践プログラム、社会課題の解決に資するグローバルな視点を修得できる分野融合科目(地球環境、法工学など)を配置した教育プログラムを提供する。

NO.	ユニット名	概 要
19	情報システム・セキュリティ	本ユニットでは、リアルとデジタルが融合するアフターデジタル時代にむけ、ヒューマンインタフェースデザイン能力、セキュリティリスクマネジメント能力、情報システムの設計・開発およびそれら用いたサービス／システム創出能力などを身につけた人材の育成を目指す。これらの能力を習得するために、ヒューマンインタフェース、情報セキュリティ、ソフトウェア工学、プロジェクトマネジメントなどに関する科目群を提供する。
20	人工知能・通信ネットワーク	持続可能な地方分散社会を実現するためには、世の中の全ての情報をデジタル化し、通信ネットワークで人工知能と結ぶことで、高度なサービスを提供するデジタルトランスフォーメーション(DX)が必要とされている。さらに、これらの技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れてイノベーションを創出し、一人一人のニーズに合わせる形で社会的課題を解決する新たな社会はSociety 5.0と名付けられた。本ユニットでは、それらの基盤技術である、センシング、通信ネットワーク、人工知能・解析技術に関する高度な専門知識を習得した人材を育成する。
21	建築学	建築学は、計画系、環境系、構造系の3分野に大きく分けられ、自然科学だけでなく、人文社会科学や芸術学に至るまで幅広い知識が要求される。本ユニットでは、安心・安全、便利、快適に加え、自然環境や風土と調和した建築物を設計できる人材を育成することを目的として、建築学に関する総合的な設計手法を習得できる科目群を提供する。

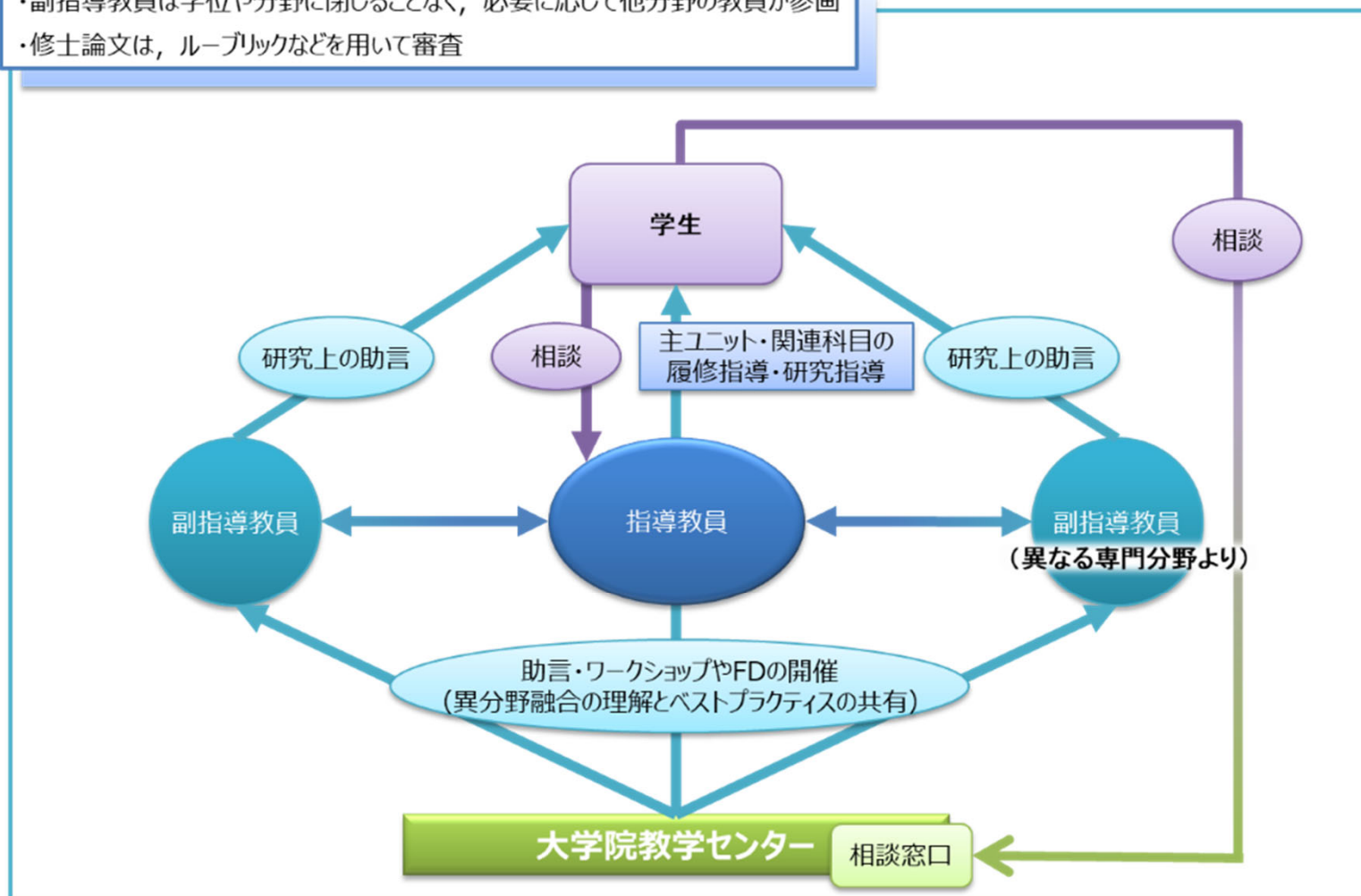


NO.	ユニット名	概 要
22	数理・データサイエンス	近年、Society 5.0に生きるために数理・データサイエンスの素養を持つことが求められている。本ユニットでは、数理・データサイエンスのリテラシレベルの知識を修得している学生を対象として、それら知識の高度化をはかる。哲学、数学、情報学、人工知能などの高度専門知識や応用事例を学修し、多様な問題やこれからの社会に対して自ら適応的に数理・データサイエンスの知識を活用できる人材育成を目指す。



研究指導体制

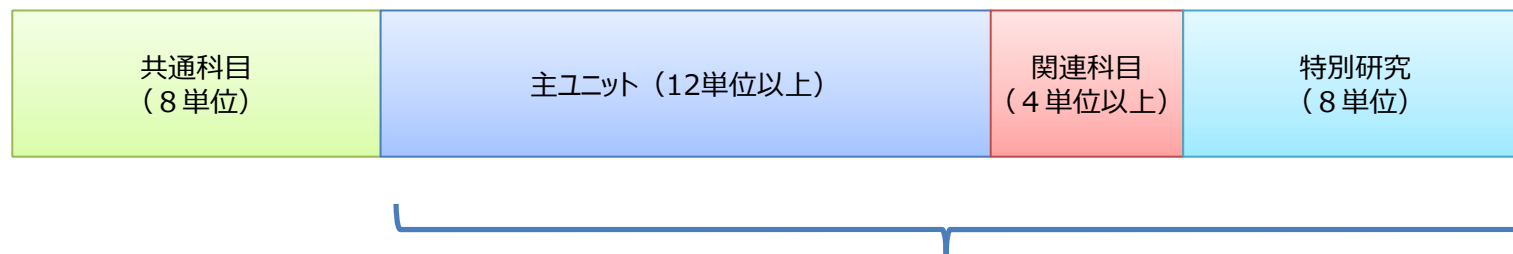
- ・副指導教員は学位や分野に閉じることなく，必要に応じて他分野の教員が参画
- ・修士論文は，ルーブリックなどを用いて審査



修了要件

	研究科 共通科目	専門科目		特別研究Ⅰ	特別研究Ⅱ	合計
		主ユニット	関連科目			
修了要件	8 単位	16 単位以上		4単位	4単位	32 単位以上
		6科目 12単位以上	2科目 4 単位以上			

共通科目：8 単位（開設科目数 12科目）



- ・原則として、共通科目を除いた全24単位中、**18単位**は学位に密接に関連した内容
- ・選択した主ユニット、修得した専門科目、および、修士論文の内容を精査した上で対応する学位を判断

授与する学位

授与する学位：修士（教育学）、修士（法学）、修士（経済学）、修士（工学）、修士（学術）、修士（危機管理学）

修士（学術）の考え方

分野	学位の名称等	
教育学・保育学	修士（教育学）	修士（学術）
法学	修士（法学）	
経済学	修士（経済学）	
工学	修士（工学）	

いずれかの分野を主軸とし、テーマに合わせて、必要な他分野の科目を履修。さらに、修士論文のテーマが複合的と判断されるものについては、「修士（学術）」を与える。

修士（危機管理学）の考え方

分野	学位の名称等	
教育学・保育学	修士（教育学）	
法学	修士（法学）	
経済学	修士（経済学）	
工学	修士（工学）	修士（危機管理学）

工学の分野を主軸として、必要な他分野の科目を履修。さらに、修士論文のテーマにより、「修士（危機管理学）」を与える。

学位と専門性

学位	要件
修士（教育学）	修得した専門科目において、科目ナンバリングの「分野」コードと対応付けられた学位分野で、「教育学・保育学」の科目数が5科目（10単位）以上であること
修士（経済学）	修得した専門科目において、科目ナンバリングの「分野」コードと対応付けられた学位分野で、「経済学」の科目数が5科目（10単位）以上であること
修士（法学）	修得した専門科目において、科目ナンバリングの「分野」コードと対応付けられた学位分野で、「法学」の科目数が5科目（10単位）以上であること
修士（工学）	修得した専門科目において、科目ナンバリングの「分野」コードと対応付けられた学位分野で「工学」の科目数が5科目（10単位）以上であること
修士（学術）	修得した専門科目において、科目ナンバリングの「分野」コードと対応付けられたいずれかの学位分野の科目数が4科目（8単位）以上であること
修士（危機管理学）	修得した専門科目において、科目ナンバリングの「分野」コードと対応付けられた学位分野で、「工学」の科目数が4科目（8単位）以上であること。また、危機管理学系のユニットで提供する工学系科目を主軸に、人文・社会学系を含めた範囲の科目履修を行っていること。さらに、修士論文の主題が危機管理に関連する内容であること

入学者選抜について

詳細は学生募集要項を参照してください。

創発科学研究科が求める人材像

- ① 主ユニットを想定した学修と研究に必要な基礎学力と思考力を有する人
- ② 持続可能な地方分散型社会実現のために、専門だけでなく異なる分野も学んで解決策を導くことに強い関心と意欲を持つ人
- ③ 基本的な倫理観と社会的責任を理解できる能力、および基礎的な外国語能力とグローバルマインドを有する人

⇒①～③の知識や能力、意欲等を、それぞれ評価するための試験を実施

入学者選抜の選抜区分

- ・ 多様な人材（本学学生、他大学学生、社会人、外国人留学生）を対象とした選抜区分を設定
推薦選抜、一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜

昨年度入試からの変更点

- ・ 総合試験について：課題を予めHPにて公表し、受験者は小論文を作成、他の出願書類と共に提出
- ・ 試験区分をⅠ～Ⅳから教育・人文、法学、経済学、工学の4系領域に変更

昨年度の入学試験結果：推薦選抜

区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
第Ⅰ区分(教育・人文)	80	2	2	2
第Ⅱ区分(法学)		0	0	0
第Ⅲ区分(経済学)		3	3	2
第Ⅳ区分(工学)-1		10	10	10
第Ⅳ区分(工学)-2		11	11	11
第Ⅳ区分(工学)-3		5	5	5
第Ⅳ区分(工学)-4		9	9	9
第Ⅳ区分(工学)-5		9	9	9
第Ⅳ区分(工学)-6		17	17	17
第Ⅳ区分(工学)-7		6	6	6
合計		72	72	71

入学者選抜について

昨年度の入学試験結果：一般選抜

I 期

区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
第Ⅰ区分(教育・人文)	50	0	0	0
第Ⅱ区分(法学)		0	0	0
第Ⅲ区分(経済学)		0	0	0
第Ⅳ区分(工学)-1		4	4	3
第Ⅳ区分(工学)-2		10	6	6
第Ⅳ区分(工学)-3		2	2	2
第Ⅳ区分(工学)-4		5	4	4
第Ⅳ区分(工学)-5		9	7	5
第Ⅳ区分(工学)-6		17	17	14
第Ⅳ区分(工学)-7		18	16	16
合計		65	56	50

Ⅱ 期

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
若干人	0	0	0
	0	0	0
	1	1	1
	3	3	3
	2	2	2
	0	0	0
	2	2	2
	2	2	1
	2	2	2
	0	0	0
	12	12	11

入学者選抜について

昨年度の入学試験結果：社会人特別選抜

I 期

区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
第Ⅰ区分(教育・人文)	若干人	0	0	0
第Ⅱ区分(法学)		0	0	0
第Ⅲ区分(経済学)		0	0	0
第Ⅳ区分(工学)-1		0	0	0
第Ⅳ区分(工学)-2		0	0	0
第Ⅳ区分(工学)-3		0	0	0
第Ⅳ区分(工学)-4		0	0	0
第Ⅳ区分(工学)-5		0	0	0
第Ⅳ区分(工学)-6		0	0	0
第Ⅳ区分(工学)-7		0	0	0
合計		0	0	0

Ⅱ 期

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
若干人	3	3	2
	4	4	2
	2	2	1
	0	0	0
	0	0	0
	2	2	2
	1	1	1
	0	0	0
	0	0	0
	0	0	0
	12	12	8

入学者選抜について

昨年度の入学試験結果：外国人留学生特別選抜

I 期

区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
第Ⅰ区分(教育・人文)	若干人	0	0	0
第Ⅱ区分(法学)		0	0	0
第Ⅲ区分(経済学)		2	2	2
第Ⅳ区分(工学)-1		0	0	0
第Ⅳ区分(工学)-2		1	1	1
第Ⅳ区分(工学)-3		0	0	0
第Ⅳ区分(工学)-4		0	0	0
第Ⅳ区分(工学)-5		0	0	0
第Ⅳ区分(工学)-6		1	1	1
第Ⅳ区分(工学)-7		0	0	0
合計		4	4	4

Ⅱ 期

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
若干人	0	0	0
	0	0	0
	5	5	3
	0	0	0
	0	0	0
	0	0	0
	0	0	0
	0	0	0
	0	0	0
	2	2	2
	7	7	5

問い合わせ先

- ・創発科学研究科に関するお問い合わせは

国立大学法人 香川大学 林町統合事務センター学務課学務係

〒761-0396

香川県高松市林町2217-20

TEL 087-864-2038(平日 9 時～17 時)

E-mail junbijim-h@kagawa-u.ac.jp

- ・他大学等出身者、社会人、留学生、本学の学生で希望する指導教員などの選択にあたって相談・助言が必要な場合は、大学院教学センターHPの問合せフォームからご相談ください。

国立大学法人 香川大学 大学院教学センター、教育・学生支援部大学院教学支援課

〒760-8521

香川県高松市幸町1番1号

TEL 087-832-1519(平日 9 時～17 時)

E-mail gs-shien-h@kagawa-u.ac.jp

大学院教学センターHP <https://www.kagawa-u.ac.jp/faculty/centers/27973/>

入学金・授業料等

- 授業料および授業料免除等は、香川大学のホームページへ
<https://www.kagawa-u.ac.jp/students/>

授業料・入学金・奨学金・保険制度

- 入学料(入学金)・授業料
- 授業料免除制度（特待生制度含む）
- 奨学金
- 短期貸付金制度
- 入学料免除・徴収猶予制度
- 授業料免除申請書類（しおり）ダウンロード
- 保険制度
- 教育ローン

参考）R4年度時点

入学金	282,000円
授業料（通年）	535,800円
授業料（半期）	267,900円